

屋根サイクル早見表

ORIGAMI LOOF

新築～10年	10年間の瑕疵保証が切れる前に点検を様々な材料を選択し新築。屋根は『下地・下葺材・屋根材』で構成され、これが屋根の寿命を左右する。何かあれば、10年間の瑕疵保証と火災保険を利用する事できます。
↓ 11年～15年	保守メンテナンスの検討・素材の延命処置 新築から10年間の瑕疵保証が切れ・風災・雪災等の被害も受け始める。住まいの健康診断をし状態の把握。塗装等の保守メンテナンスを検討し素材の延命処置をしましょう。被災があれば火災保険を申請しましょう。
↓ 16年～20年	住まいの健康診断は必須 この時期が重要で、素材の寿命を左右します。劣化を放置しているのであればこの時期に住まいの健康診断をして、塗装などで劣化を解決しましょう。
↓ 21年～30年	二回目の保守メンテナンスの時期 新築時から放置であれば素材の交換か塗装の選択が分かれる。診断をして最適な選択をしましょう。
↓ 31年～	カバー工事や葺き替えが必要 屋根材・下葺材の劣化で雨漏りが発生する時期。塗装では効果が見込めない可能性が高い。診断をして今後のライフサイクルと合わせてカバー工事や葺き替えが必要。風災・雪災などの火災保険の申請対象が多く見受けられる。